

このページは、小・中学生に向けて梅光学院大学子ども学部子ども未来学科(地域共生ゼミ)の学生が作っています。

しものせき キッズページ

ほんしゅうよんたんとうは
「本州四端踏破ラリー」



▲本州最西端・毘沙の鼻(下関市吉母字御崎)。展望デッキからは響灘の雄大な景色を見ることができます。

本州四端とは、本州の東西南北それぞれの最端の地のことで、下関市は「毘沙の鼻」が本州最西端の地となっています。本州の最北端の地は、青森県大間町「大間崎」、最南端の地は、和歌山県串本町「潮岬」、最東端の地は、岩手県宮古市「鮎ヶ崎」です。この四端は、観光スポットとして誰でも行くことができる場所となっています。



本州四端とは！



本州四端踏破ラリー



▲本州四端のPRパンフレット

本州四端踏破ラリーは、昨年10月で、参加人数が1000人を超え、20代・30代の若い人の参加が一番多かったそうです。70歳以上の方の参加も多数ありました。その中でも、交通手段が多いためか、関東地方からの参加が多く、車やバイク、自転車で行く人も少なくありません。このラリーは長距離の移動になるため、参加者の中には短期間ではななく、何年かかけてラリーに挑戦する人もいます。本州四端のまち全てを訪れると、4市町長直筆サイン入りの証明書と記念品が贈られます。踏破者1000人突破を機に、記念品にオリジナルステッカーが加わりました。

さらに、このラリーは、本州四端各市や町の特産品、海産物のPRにもつながっています。「ラリーがきっかけで思い出深い風景に出会えました」「市長の直筆のサインが嬉しかった」「一生の思い出になりました」といった喜びの声

も多数寄せられています。興味がある人は本州四端踏破ラリーに挑戦してみてくださいか。

話し合いで広がる笑顔

地域特性を活かした交流を通して地域活性化を図るため、平成16年1月15日に下関市が呼びかけて「第1回本州四端協議会」が設立され、四端の地を巡る「本州四端踏破ラリー」が始まりました。その後、毎年のように4人の首長が集う「本州四端首長交流会議」と「PRイベント」などが開催されています。

2012年7月20日、本州四端の市長・町長が青森県大間町に集まって「本州四端首長大間崎踏破及び交流会議」をしました。

去年の12月には愛知県豊田市で行われたイベント「ハイブリッドフェスタ2012」の会場で、4つの市・町をPRしました。特にサケ(宮古市)・フグ(下関市)・伊勢エビ(串本町)・マグロ(大間町)など、各地の海の幸が当たる。

○Xゲームは大人気でした。

本州四端は、観光以外の分野でも協力関係を結んでいます。東日本大震災のときには、下関市から宮古市に職員を派遣したり、救援物資を送ったりするなど復興支援を行いました。



BISYA NO HANA
West end of the mainland

6月号の編集記者(左から)にしたもりの西田智則さん、もどむらしんご元村慎吾さん、たけしたゆうすけ武下侑介さん(イラストも)



▲毘沙の鼻展望デッキからの景色。蓋井島がすぐ近くに見えます。



▲本州四端踏破証明書と記念品のステッカー、ストラップ。※ストラップは、いずれか1つ